

広島ガスグループ「2050年カーボンニュートラルへの取り組み」

2021年11月、広島ガスグループは、「2050年カーボンニュートラルへの取り組み」を策定し、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた中長期的な方向性や取り組みを示しました。

経営理念である、「地域社会から信頼される会社をめざす」を念頭に、当社グループ役職員が一丸となり、2050年カーボンニュートラルの実現、そして「このまち」のさらなる発展に貢献できるよう努めてまいります。

● 広島ガスグループにおける「2050年カーボンニュートラルへの取り組み」

- 2030年までは、これまで実行してきた環境負荷低減に向けたさまざまなESG関連事業の取り組みを中心に、事業活動やお客さま先におけるCO₂排出量の低減を着実に推進していきます。
- 将来的には、メタネーションや水素の利用による「ガス自体の脱炭素化」に取り組むとともに、電源の脱炭素化も含め、2050年のカーボンニュートラルをめざしていきます。

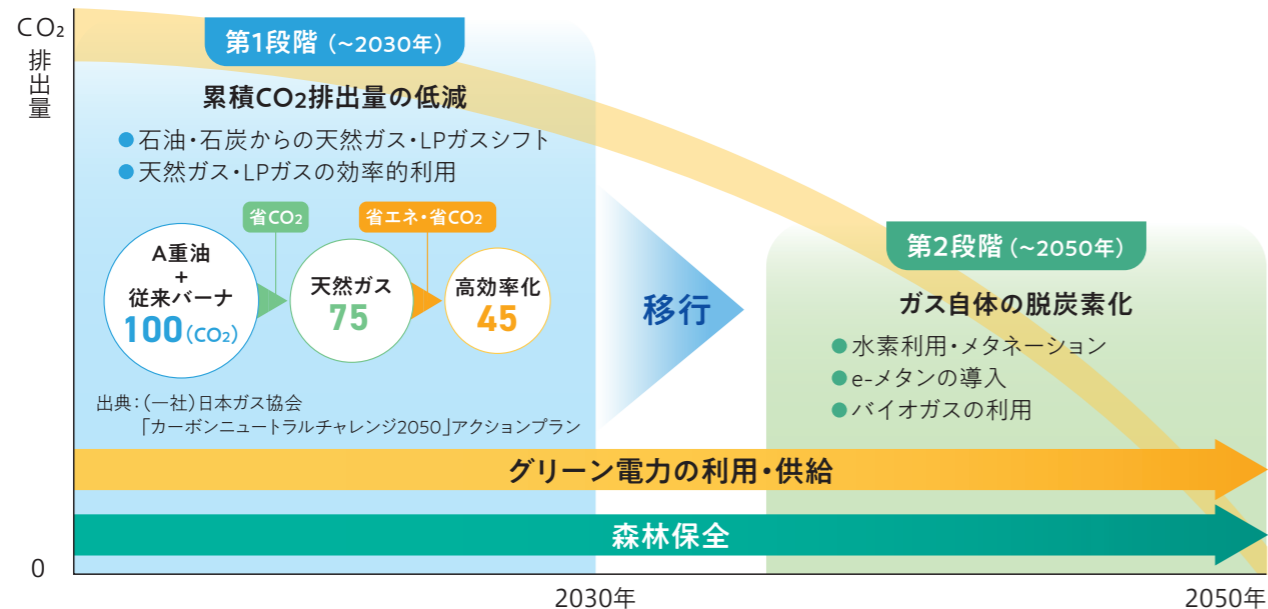
● 2030年度目標

CO ₂ 排出削減貢献量	30万t/年 ^{※1}	※1 当社およびお客さま先における2030年度時点のCO ₂ 排出削減貢献量(2021年度～) ※2 太陽光、風力、バイオマスなど固定価格買取制度(FIT)の適用電源を含む ※3 CO ₂ 排出削減貢献量 30万t/年を含む
再生可能エネルギー電源取引量	6万kW ^{※2}	
広島ガス事業所・製造所におけるCO ₂ 排出量	2013年度比50%減 ^{※3}	

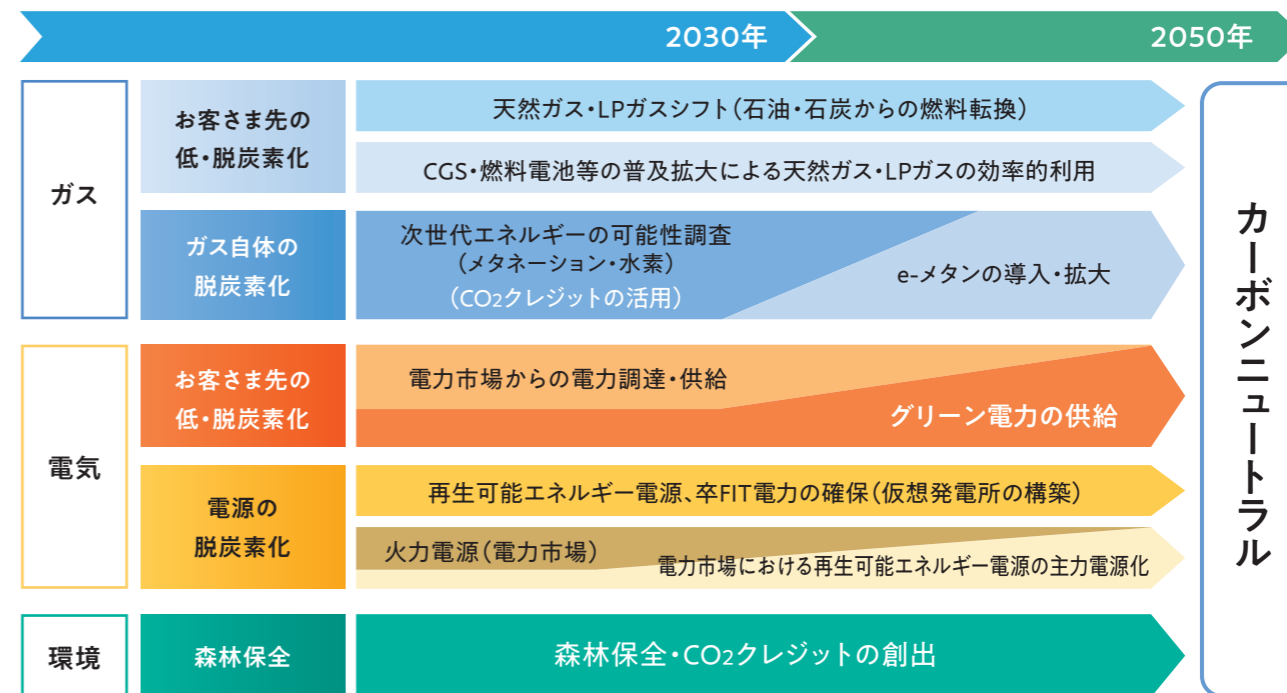
● 取り組みの基本的な考え方

天然ガス・LPガスシフト、天然ガス・LPガスの効率的利用による「お客さま先の低炭素化」を着実に進めつつ、e-methane (e-メタン)^{*}の導入、バイオガスの利用を通じた「ガス自体の脱炭素化(供給側の脱炭素化)」へ移行していくことで、2050年のガスのカーボンニュートラル化に挑戦します。

^{*}脱炭素製造された水素とCO₂を合成したメタン



● 2050年カーボンニュートラルに向けたロードマップ



● カーボンニュートラル実現に向けたエネルギーシステムのイメージ

